

2006年度 社会活動報告書



SHIMANO
www.shimano.com

株式会社シマノ
〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁目7番地
広報室
Phone: 072-223-3957
Fax: 072-223-6045

この冊子は「レイク・パピルス」(ヨシ混抄紙)を使用しています。琵琶湖の「西の湖」に群生するヨシは、春から冬に枯れるまでの間、湖の水を絶えずきれいにします。毎年刈り取る必要のあるヨシをリサイクルしてできたのがこの冊子の用紙で、1冊につき琵琶湖の水、約900ℓの水が浄化されました。

2007年4月1日発行 ©2007 by Shimano Inc. Printed in Japan PLD XBC IZM

SHIMANO

2006年社会活動ご報告

サイクリング、釣り、スノーボード。それぞれのフィールドの中でアウトドア・スポーツの多様な楽しさと自然と一体になる喜びを広く深く広げていきたい。当社は、この願いをかなえるために「こころ躍る製品」をお届けするとともに、さまざまな社会活動を行っております。

釣り大会や自転車イベントの開催など、釣りや自転車の楽しさを広げる活動に加え、当社が生まれ育ったまち・堺を流れる大和川の清掃活動など、地域に密着した活動についても継続して行なっています。

また、健康や環境への関心が高まる中、昨年、東京・南青山に新しい自転車文化の発信基地、「オーブ」を開設し、健康的に自転車を楽しむライフスタイルを提案しています。今年、米国において、さらに多くの方々により自転車を楽しんでいただくべく、新しい自転車スタイルを提案してまいります。

当社では、こういった社会活動に取り組むとともに、持続的な企業価値の創造と向上を目指して、コーポレートガバナンスの強化に取り組んでいます。昨年は、チームシマノ全体の事業活動を適切にマネジメントしていくため、グローバルな枠組みで、自らの手による内部統制の整備・充実に着手いたしました。

今年で3回目の発行となる「社会活動報告書」では、日本国内だけではなく、グローバルに展開するチームシマノの活動についてもご紹介しております。この報告書を通して、当社と当社社員の行なう等身大の社会活動に対する皆様のご理解の一助となれば幸いです。

代表取締役社長 島野 容三



INDEX

2006年社会活動ご報告	1
チームシマノ基本理念・社会活動方針	2
[企業価値の創造と向上を目指して]	
こころ躍る製品を	3
シマノを支えるひとづくり	4
コーポレートガバナンスの強化	6
[2006年度社会活動]	
国内	
喜びの高揚 ひと	8
活動 ハイライト	10
利用環境の改善と保全 ひと	12
活動 ハイライト	14
信頼の構築 ひと	15
活動 ハイライト	18
その他 2006年度社会活動	20
海外	
喜びの高揚	22
利用環境の改善と保全	24
信頼の構築	25
[チームシマノ パフォーマンスデータ]	
「2006年度社会活動報告書」を読んで	28

こころ躍る製品を

私たちシマノの事業活動の基本は、「こころ躍る製品」を社会に提供することです。
誰もが使いやすく、そして快適に走ることのできる自転車部品、テクノロジーと感性の融合を実現する釣具 - これらの製品をお届けすることで自転車・釣りの楽しさをさらに広げ、自転車文化・釣り文化を発展させたいと考えています。

自転車部品

ライダーの心を掴むデザインと性能 - シマノXTR -

常に新たなスタイルをリードする、性能面でもデザイン面でも最高峰のマウンテンバイク・コンポーネントを創りたい - そんな思いが結実した製品が2006年に一新された「シマノXTR」です。

チタンとカーボンで構成されたチェーンリングにより軽さと耐久性を追求、「X」をモチーフにしたデザインにも工夫を凝らしました。

このシマノXTRは、世界最大級の自転車展示会「ユーロバイクショー」において、最も革新的で優れたデザインの新製品に与えられる「ユーロバイク・アワード」の金賞を受賞しました。

釣具

最高のブレーキ性能 - アンタレスDC / DC7 -

軽いルアーでも、糸がもつれず遠くに飛ばせる電子制御のブレーキシステムを搭載した「アンタレスDC / DC7」を発表しました。

この「アンタレスDC(海外での製品名はカレーDC)」は2006年7月米国・ラスベガスで開催されたICASTショーにおいて「ベスト淡水用リール賞」を受賞しました。



チームシマノ基本理念・社会活動方針

シマノは、21の国と地域に拠点を置き、世界中でその事業活動を展開しています。
私たちは世界中のシマノ・スタッフをひとつにまとめ、「チームシマノ」として、共通の理念のもと、共通の目標と共通のプロセスで活動しています。

< チームシマノ基本理念 >

会社の使命

人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。

経営の方針

お客様に信頼され、満足していただけるサービスと製品を提供する。
企業価値を高め、開かれた経営を約束する。
達成感と、よろこびを分かち合える、公正でいきいきとした職場づくりに努める。
社会の一員として環境を大切に、共に繁栄することを目指す。

チームシマノの行動指針

豊かな創造性をはぐくみ、たえず自己を啓発する。
つねに技術の向上に努め、夢の実現に挑戦する。
大きく発想し、機敏な行動で着実に実行する。

< チームシマノ社会活動方針 >

喜びの高揚 ————— 人々に楽しみ喜びを提供する

利用環境の改善と保全 ————— 自然環境、生活環境、製品利用環境の改善と保全に協力する

信頼の構築 ————— 地域社会に企業市民として参加し協働を行う

シマノを支えるひとづくり

すべての事業は、メンバー一人ひとりの日々の活動なしには結実しません。
豊かな創造性をはぐくみ、自発的なチャレンジを支援するため、シマノはさまざまな機会を提供しています。

新入社員研修では...

事業内容やビジネスルールの座学講習だけでなく、体験・体感を重視したカリキュラムがあります。「自転車・釣具の組み立て研修」はそのひとつ。すべての新入社員が製品の組み立てを行います。ユーザー様の立場で製品をみつめるために、組み立て後の製品を実際にフィールドで使用することまでを含めたカリキュラムとなっています。

ものづくりの現場では...

ものづくりの伝統を守るべく、「シマノ骨太スクール」を行なっています。OBやベテラン社員などが講師となり、若手社員を対象に金属の加工技術や素材の種類、また実際に製品ができるまでの原価計算の方法などを座学で教えています。手動旋盤など昔ながらの工作機械を実際に駆使し、金属製の小物入れや金型などをつくる実習も行ないます。



新入社員研修

日々の研修では...

各部署が独自に行なっていた研修・講習を調査し、共通性のある内容を一元化、2005年から「シマノ塾」と名づけ、全社共通の教育を実施しています。必修講義(ISO、社内ルール、コンプライアンスなど)と選択講義(財務、技術、語学など)に大別され、その内容は多岐に渡っています。カリキュラムは、社員の声を吸い上げて半期ごとに見直されます。

管理職研修では...

「SLD(Shimano Leadership Development)」と呼ばれる管理職研修では、数人のグループごとに「業務に関連した解決すべき課題」を設定し、問題解決に取り組みます。経営ツールを学べる良い機会であり、グループワークを通じて他部署スタッフとのコミュニケーションが活発化する効果もあります。当初は課長級のみを対象にした研修でしたが、より内容を高度にした部長級向け研修「SED(Shimano Executive Development)」など、徐々にその対象を拡げ、現在では海外のチームシマノ・メンバーにも展開しています。



「シマノ塾」



管理職研修「SLD」

海外への長期派遣

SLDで起案され、採用されたシマノ独自のユニークな研修システムに海外小売店への長期派遣制度があります。この研修では、管理職推薦によって選ばれた若手社員を、海外の自転車販売店様に単身で3ヶ月間に渡って派遣します。3ヶ月間、派遣先でお手伝いさせていただく中で研修者は次のようなことを学びます。

海外経験 - これまで自分が持っていた常識とは違う世界があることを認識する。

現場感覚 - 自転車販売店様でのお手伝いを通じて、市場の最前線で起こっている出来事を知る。

リーダーの資質 - 単身で3ヶ月、見知らぬ土地で自らの考えで行動する。

研修者は「ユーザー様と自転車販売店様がどのような会話を交わしているのか?」「シマノの部品がユーザー様の手元でどのように使われているのか?」「ユーザー様の立場からみたとき、どのような品質が求められるのか?」などを学ぶことに始まり、その国における自転車交通の実態、自転車を巡るライフスタイル、デザインの嗜好など、様々なことを、五感をフル活用して感じ取ります。そしてそれが新たな企画、設計、製造など日々の仕事に活かされていくのです。また、研修者は、その活動内容を現地より、随時、社内に向けて情報発信。貴重な体験を自分の経験だけにとどめることなく、多くの社員に伝え、共有します。



海外研修

コーポレートガバナンスの強化

よき企業市民として社会的責任を果たし、社会からの信頼を得るために、透明性が高く効率的な経営が求められています。
2006年度はコーポレートガバナンス強化の一環として、内部統制システムの整備・充実に取り組みました。

内部統制システムの整備・充実に着手

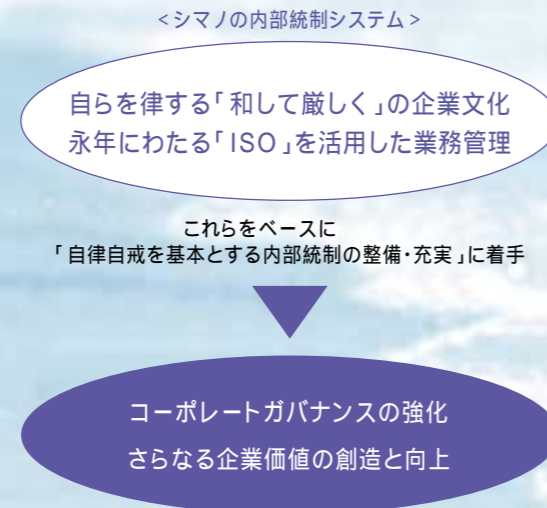
「金融商品取引法(旧証券取引法)」の成立に伴って義務づけられる「財務報告に係る内部統制システムの構築及び内部統制報告書の提出」に向けて、内部統制の整備・充実に着手しました。
2006年度は、全世界のチームシマノ・メンバー27名で構成される準備組織を発足し、「本社規定と各国・各地域の法律との適合度」などを調査、その成果をもとに来年度よりシステムの構築に本格的に取り組んでまいります。

チームシマノの連携強化の機会に

チームシマノでは多くの指針や規定を共有していますが、それらの個々の運用についても統一性を持たせ、チームとしての力をより強く発揮したいと考えています。

システムの構築については、「外部の専門家に委託し、アドバイスを求める」という選択肢もあります。しかし、私たちは「自らを律し、自らの努力で構築する内部統制」にこだわり、組織を横断した社内プロジェクトチームを設けました。
私たちが「自らの努力で構築する」ことにこだわっているのには理由があります。ひとつは、ISOによる業務管理を永年行なっているため業務プロセス管理の土台ができているという点。そしてもうひとつは、創業以来、「和して厳しく」という自律した企業風土がある、という点です。

「一から新しいルール」をつくるのではなく、これまで継承してきたシマノの価値観・倫理観をチームシマノでしっかりと再認識・共有し、それを未来の仕組みづくりに活かす
- これが我々の考えている内部統制整備・充実に向けての基本姿勢です。

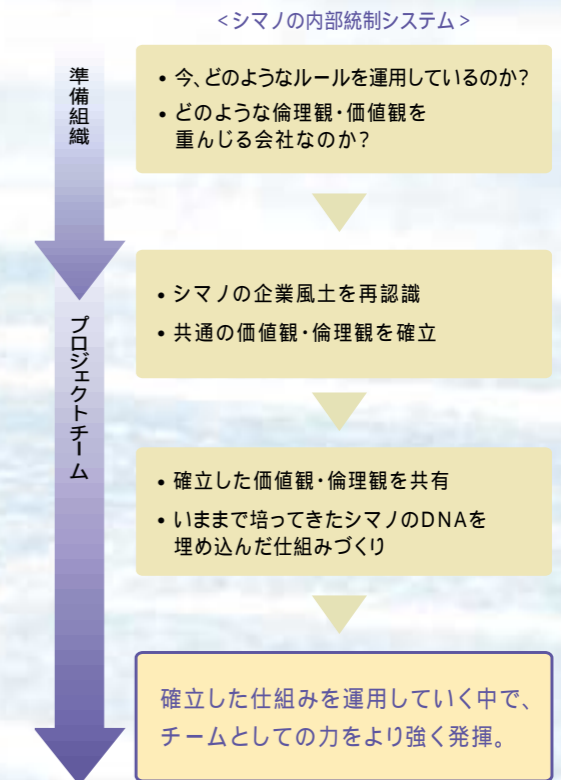


日本国内での統制システム整備を経て 海外拠点に展開

社内プロジェクトチームは「全社的な内部統制」「業務プロセス」「決算報告プロセス」「IT内部統制」「国内関係会社展開」「海外関係会社展開」の6グループからなります。
今後、2008年度末までの2年間で財務報告に係る内部統制システムを構築し、2009年にかけて本格的に運用。その結果を1回目の内部統制報告書として提出する予定です。

まず日本国内での内部統制システム整備から着手し、順次海外拠点への展開を行ないます。
将来的には、現在運用しているISO9000、14001、OHSAS18000と統合したマネジメントをベースに活動していきたいと考えています。

2007年4月には、本プロジェクトの推進を専任とする「内部統制推進室」が発足予定。コーポレートガバナンスの強化に向けて内部統制の整備・充実に進めてまいります。



喜びの高揚

ひと

ライフ・クリエーション・スペース「オーブ(OVE)」

自転車を楽しむ新たなライフスタイルを提案しています
 バイシクルコンポーネンツ事業部 企画部 三好裕之

「多くの人に興味を持ち続けてもらい、魅力溢れるライフスタイルを提案し続けることは大変難しいことです。でも、活動がんばる中で多くの笑顔に出会うことができると、正直、ホッとします」

2006年1月東京・南青山に新しい自転車文化の発信基地として開設。セミナーやパーティー、自転車ツアーを通じて、健康や環境に興味がある知的で都会的なスタイルを持った人たちが気軽に集まる場を演出しています。



シマノ・ジュニア・アカデミー

子供たちの自転車への夢をかなえることが僕らの夢です
 スキル・シマノ レーシングチーム 廣瀬佳正

「僕たちのアドバイスを真剣な眼差しで聞いてくれる子供たちの姿を目の当たりにすると、指導にも自然と熱が入ります。彼らは、オリンピックやツール・ド・フランスで走ることを夢見ています - その夢を実現することが僕らの夢です」

サイクルスポーツをもっと楽しんでもらおうとの思いから、2005年より各地で「シマノレーシング・サイクルアカデミー」を開催。2006年からは中学生・高校生を対象にした「シマノ・ジュニア・アカデミー」もスタートさせました。



自転車レース・テクニカルサポート

大事に使っていただいているシマノ製品を励みにサポートをしています
 バイシクルコンポーネンツ事業部 営業部 黒川邦彦

「トラブル対応した選手が、遅れを挽回して入賞してくれた時など、自分の仕事にやりがいを感じます。また、サイクリング大会等で、古いシマノの部品を大事に使っていただいている様子を見ると、古くなってもしっかりと仕事をしているシマノの製品に誇りを感じ、嬉しくなります」

様々なサイクルスポーツイベントで、自転車のメカトラブルの応急処置など、参加者のサポートをしています。



「フィッシング・カフェ」プロジェクト

「釣り文化」の魅力・楽しさ・奥深さを伝え続けたい
 釣具事業部 営業企画部 安東正幸

「『釣りとは、魚を釣れるという素直な感動と、それを育む自然の恩恵への感謝を通して、人生に潤いを与えよりいっそう豊かにしてくれる文化である』というシマノの理念を大事に活動しています。今後も多くの人々に、『釣る』という行為だけでなく『釣り』というものの持つ魅力・楽しさ・奥深さを伝えて行きたいと思います」

季刊誌を中心に、ホームページ、TV番組（CS放送・スカイパーフェクTV釣りビジョン）で「釣り」「魚」にまつわる様々な文化を紹介しています。



「日本BtoB広告賞・PR誌の部」で
 2年連続金賞を受賞しました

国内唯一の産業広告コンテスト
 「日本BtoB広告賞(旧日本産業広告展)」で、
 異例とも言える2年連続金賞を受賞しました。



ツアー・オブ・ジャパン大阪ステージ開催協力

国際レースの迫力を楽しみながらお手伝いしています
 品質管理部 専頭喜美代

「毎年、お手伝いさせていただく傍ら、間近でレースが見学できるので、わくわくしながら楽しんでいます。シマノのチームの選手が走って来るとついつい、応援をしたくなります。選手たちが、すごく速いペースで1周して戻ってくるのには、感動を覚えます。さすが国際レースですね。これからも素晴らしい感動を皆様にご提供させていただきます」



「ツアー・オブ・ジャパン」は、アジア最大規模のUCI公認レース。全国6箇所で開催され、大阪ステージは、例年、シマノの本社のある堺市で行なわれます。シマノからは約150人の社員が、競技役員やコース警備、メカニックのニュートラルサポートといった形でレース開催に協力しています。

喜びの高揚

活動 ハイライト

完成車メーカー様と「自転車の新しい楽しみ方」を企画した「コースティング」プロジェクト

その国の文化や道路事情にフィットして、今まで体験できなかった楽しみを提案する自転車を創りたい - 2007年春、シマノはアメリカの生活者向けに「コースティング」という新しいスタイルの自転車を展開することになりました。バイクコンポーネンツ事業部 企画部の豎川係長に企画意図や想いを聞きました。



豎川係長

自転車を誰もが笑顔で楽しめるものへ

アメリカの子供たちは日本同様に自転車を楽しんでいます。しかし大人になっても自転車に乗り続けるのは、「スポーツとして自転車を楽しむマニア層」だけです。

「全米の4分の3の人たちが「自転車に今は全く乗らない」人たちなんです。この「乗らない人たち」は、自転車を「競技などのために乗るもの」「機械操作がややこしいもの」と思っています。でも、その人たちの声をよく聞くと、『子供の頃のように、笑顔で気軽に自転車を楽しみたい』と思っている、ということが見えてきたんです」(豎川係長談。以下同)

新ジャンルの自転車を作ろう

「乗らない人たち」に自転車に親しんでもらうためには、アメリカ市場の中心を占めるスポーツバイクではない「新ジャンルの自転車」が必要だと思われました。

「でも、個々の完成車メーカー様が新しい自転車を開発しても、競合があるから大きなムーブメントにはなりづらいんです。それなら、部品メーカーのシマノが中立的な立場から提案をしてはどうか？ そう思って、まずは我々が企画に取り組むことにしました」

こうして、「コースティング」(そりなどで滑る、という意味)というコンセプトが誕生しました。肩の力を抜いて自転車を楽しんでほしいという思いをこめたネーミングです。



コースティングのプロトタイプデザイン



流線型のフレームでペダルに至るまで丸みを帯びたデザイン。コースティングの名にちなみ「コースターブレーキ」(ペダルで操作するブレーキ)を採用したので、ハンドルまわりにはレバーもワイヤーもなく、すっきりしています。

「コースティング」デザインのポイント

以下の4点をポイントに自転車の全体デザインが設計されました。

- ① 外観はシンプルで、すっきり
- ② メンテナンス不要で乗りたいたときにすぐに乗れる
- ③ いつもの服装で気軽に乗れる、しんどくない
- ④ 手頃な価格(300ドル~400ドル程度)



数多くのデザインスタディの一部

「操作がややこしい」と言っている人たちのために作るのですから、専門的な部品性能はアピールポイントにはなりません。第一印象で「楽しそう!」と思える外観をデザインすることがとにかく大事でした。目立たせるために車体やパーツが部分的に大きく、重くなりました。軽量化が常に求められるスポーツバイクの世界と対照的ですよ。身に染みついた「シマノ的常識」からいかに離れるか、が企画チームの課題でした(笑)」

2007年春、先行3社の「コースティング」が市場デビュー

シマノが企画したこの基本コンセプト・プロトタイプデザインを完成車メーカー様に提案した結果、多くの完成車メーカー様が「コースティング」の名のもとにそれぞれの自社商品を販売することになりました。まずは3社のコースティングが2007年3月に全米市場にデビューします。

「この3月に発売されるのは「第一弾」。デザインや機能は、市場の反応をみながら今後どんどん進化していきますよ」

コースティングコンセプトに賛同するメーカー様は現在14社を数えており、各社各様の製品づくりが今後期待されます。

新しい販売形態にチャレンジ

「乗らない人たち」のための製品なので、「こんな自転車がある」ことを知ってもらい、楽しみ方を提案しなくてはなりません。そこで注目されるのが、地域に根差した情報を対面で伝えることができる自転車販売店様の存在です。ただし、今までのスポーツバイクの売り方では敬遠されてしまいます。そこで店外サインから展示方法まですべてをマニュアル化することにしました」

完成車メーカー様からの声かけの結果、全米約2000軒の自転車販売店様のうち実に半数の店舗で、上記の方法でのコースティング販売が行なわれることになりました。

「これからの反応が怖くもあり、楽しみでもあります。コースティングが多くの人たちにハッピーな気分と新しいライフスタイルを運ぶように、完成車メーカー様、販売店様との協働を続けたいと思います」



街頭プロモーションの一例

利用環境の改善と保全

ひと

自転車通勤

爽快だけでなく、身近な環境問題に目が向くようになってきました
バイシクルコンポーネンツ事業部 管理部 斉藤章

「毎日、通勤で自転車に乗るうちに、なにか環境を意識している自分いることを最近、発見しました。毎日通る道の上や道路の脇に落ちているゴミも気になり、目に付くようになりました」

シマノでは、自転車通勤を奨励しています。
 駐輪場、個人ロッカーや風呂などの設備があり、
 約3割の社員が自転車で通勤をしています。

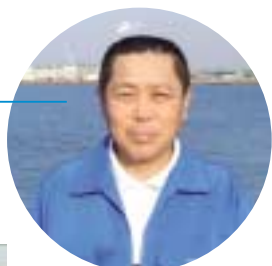


大阪湾水質調査ボランティア

身近な海を美しい釣り場にするための一歩として、参加しました
シマノ臨海 釣具サービス課 小林健武

「『大阪湾を美しくするための手助けになるのではないかと』と思い、応募しました。事務局より調査方法などの説明を聞くにつけ、知らないことの多さに驚かされました。皆さん美しい海や川を取り戻す為、身近なことからはじめましょう」

NPO法人 釣り文化協会が内閣府の「平成18年度
 全国都市再生モデル調査」の一環として行なった
 「釣り人と市民の大阪湾水質調査」にボランティア協力しました。



マダイ種苗放流

水資源の維持・拡大に取り組んでいます
神奈川県栽培漁業協会 事務局長代行 鈴木秀雄さん

「いつもご協力ありがとうございます。
 1987年の放流開始以降マダイの漁獲量が回復しており、
 本事業に手応えを感じています。
 水産資源を維持・拡大し、私たちの手で豊かな海づくりを行なうことを
 目指し、今後も活動を続けていきたいと思っております」

シマノでは2001年より「人と生物が互いに共存できる
 豊かな海づくり」を目指している神奈川県栽培漁業協会の
 マダイ種苗放流に協力しています。



シマノ・クリーンナップ・プロジェクト

ひとりひとりの努力で釣り場のゴミを減らしたい
釣具事業部 営業部 佐藤孝視

「この3年間活動を行ってきたので、釣り関係のゴミはかなり減ってきています。
 でも定番の空き缶、ビン、ビニール類は相変わらずです。
 今後も釣り場清掃と大会参加者への呼びかけを積極的に行ない、
 きれいなところで釣りができる環境を作っていきたいと思っております」

「各自が身近なフィールドをきれいにしよう」と2003年から
 ホームページで呼びかけを行ない、これまでに4000名以上の方に
 参加いただいています。私たち社員もシマノ・ジャパンカップなどの
 釣り大会を楽しんだ後、大会参加者の方々にもご協力いただき、
 クリーンナップを実施しています。



大和川ヨシ刈り

予想以上に硬いヨシに苦戦!「日本一汚い川」という
 汚名返上に努力したいです
バイシクルコンポーネンツ事業部 開発設計部 福島陽児

成長したヨシは硬くて、かなりの勢い力で鎌を振らなくては刈れません。
 ヨシがなくなったあとは、運んでも運んでもきりがないゴミに一苦労でした。
 『日本一汚い川』との汚名を背負う大和川に自分の会社が行なっているこの活動、
 なかなか予定が合わずようやく初参加できました。
 一緒に行った妻と『また参加しよう』と言っています」

水質を浄化する働きのあるヨシの成長を促すために、
 2003年から大和川のヨシ刈りを行なっています。
 2006年は、シマノ社員のほか、大和川再生協議会さんや地元の
 ライオンズクラブさんなどから約200名が参加しました。



刈り取ったヨシはチップ化し、福祉作業所との
 協働でリサイクル紙「シマノ・ペーパー」などを
 作成しています。

利用環境の改善と保全

活動 ハイライト

製品全体の環境負荷低減を目的にした
「シマノ・グリーン・プラン」

2006年度はEUにおいて「RoHS指令」が発効され、原材料の安全性、環境負荷低減がこれまで以上に注目された年でした。シマノのグリーン調達取り組みを、管理本部 業務改革部 島野係長に聞きました。

シマノ・グリーン・プランとは

2006年7月、電気・電子機器に組み込まれる特定6物質の使用を禁止するRoHS指令がEUで発効されました。シマノでは、より早期にこの指令に対応すべく準備を進め、2006年3月末に特定6物質の全廃を果たしました。このRoHS指令をはじめとする各種法令の順守と製品全体の環境負荷低減を目的に「シマノ・グリーン・プラン」(旧名称「シマノ・グリーン調達基準」)を2004年より作成しています。

「法令の変化などに対応して版を重ね、現在の版は第5版です。RoHS指令(EU)、プロポジション65(米国)、化審法(日本)、家庭用品の規制に関する法律(日本)などに加え、シマノが独自に設定した使用禁止物質も含めた管理基準になっています」(島野係長談。以下同)

お取引先様とともに

当社の製造は多くの協力工場様に支えられています。このため、各お取引先様に「シマノ・グリーン・プラン」へのご協力をお願いし、社員研修「シマノ塾」に参加していただいたり、協力工場様の社内研修に講師を派遣したりしています。

「永年使用していた原材料をより安全性の高いものに転換していく取り組みは容易ではありません。私たちの課では、各お取引先様から得た製法や代替品の技術情報などを、別のお取引先様にご紹介する...などの活動を通じて、各お取引先様のグリーン・プラン達成をサポートしています。

グリーン・プラン発行当初は、『シマノのためだけに設備変更を伴う大幅な対応をすることは困難』との発言をお取引先様から聞くことも多かったのですが、環境負荷低減への社会的要請の高まりを受けて、『シマノ以外のお取引先様からも要望があったので、製法や設備を大幅に見直した』という声を聞くことが増えてきました。中国版RoHS(2007年3月施行)REACH規制(2007年6月施行・EU)など、今後さらに強化される法規制を順守して、より環境負荷の低い製品を実現していきたいと思っております」



お取引先様の社内研修に協力



島野係長

信頼の構築

ひと

キャリア教育プロジェクト

自転車に目を輝かす子供たちを見て、新たな意欲がわいてきました
バイシクルコンポーネンツ事業部 企画部 池本英樹



「"未来の自転車"を企画するのに戸惑う子もいます。でも多くの子供たちが、自分で考え、仲間と話し合って面白い商品を生みだしていくことの醍醐味に没頭している様子が実感されました。マウンテンバイクの周りに『めっちゃっこええ!乗りたい!』と集まってきた子供たちを見て、僕自身も意欲が湧いてきました。かっこええものつくるぞ!」



2006年度は、実際にシマノの製品を企画している企画部の社員がプロジェクトに参加。子供たちに自分たちの仕事について熱く語りました。

2005年度より、経済産業省の「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」の一環として、南大阪地域大学コンソーシアムさんが企画した「自転車のまち 堺から発信する『こんな自転車ほしかってん!』」に協力しています。



ものづくりへの思いを語っていただくことで子供たちの想像力ややる気が高まっているようです
南大阪地域大学コンソーシアム 木村ゆいさん

「社員一人ひとりが仕事に対する楽しさややりがいを感じながらいきいきと働いておられることに驚きました。だからこそ、キャリア教育にも深いご理解をいただけたのではないかと考えています」



「キャリア教育プロジェクト」での活動が
文部科学省より表彰されました

2006年11月、「キャリア教育優良教育委員会等・学校等文部科学大臣表彰」を授与されました。子供たちの仕事に対する関心を高め、地域産業への理解も深めさせた点などが評価されたものです。

第1回下関サイクルマラソン

準備はバタバタでしたが、参加者の喜びの声に報われました
下関工場 開発設計部 正下昭彦

「当日はあいにく雨でしたが、『走りごたえがあった』『景色が良かった』『来年も是非参加したい』などのコメントをいただきました。準備はバタバタでしたが、開催して良かったと思いました。来年はもう少し暖かい時期に開催して、参加者の方にさらに楽しんでいただければと思います」

実走サポート、メカニック、最新自転車の試乗会などを行ない、「第1回下関サイクルマラソン」(2006年11月)に協力しました。



江島下関市長も雨の中ロングコースに挑戦。約9時間をかけて完走いただきました。

自転車博物館・自転車散歩

スタッフが入念に準備してくれるので安心してサイクリングを楽しんでいます
自転車散歩参加者 居上繁和さん

「一人で走るのも楽しいですが、みんなで走るのもまた別の楽しみがありますね。スタッフの方々は大見などの準備を入念にされていて、「参加者に楽しんでもらおう」という意気込みを感じます。今、66歳ですが、これからも元気に自転車を楽しみたいです」

自転車博物館では「おはようサイクリング」「自転車散歩」などのサイクリング・イベントを多数開催しています。



2006年のべ541名が参加されました。

大和川清掃

自分の住む町を大切にしたいから
家族4人で参加しています
品質管理部 塩見和彦

「自分の住む町を大切にしたい気持ちをいつまでも忘れないでほしいから、いつも家族4人、自転車で清掃現場に行ってます。清掃後は会社からお弁当ももらえるので、子供たちはそれも楽しみにしています。(笑)活動の回数を増やすだけでなく、ごみを捨てなくなるような仕組みができないかなと思います」

毎年2回、地域の方々と一緒に「大和川清掃」に取り組んでいます。2006年度はのべ342人の社員やお取引先様が活動に参加しました。



私たちが「大和川清掃」に参加しています
株式会社サンボウのみなさん



「子供の頃、大和川の堤防でよく遊びました。大人になって、その川が水質汚染ワーストの常連だと知った時はショックでした。少しでも綺麗にして未来の子供たちにこの川を引き渡したいと思っています」「活動に参加してから、自宅でもゴミの分別をするようになりました。今後も家族を含めた取り組みを進めていきたいと思っています」「参加している子供たちが、同じ気持ちのまま大人になってくれたら、大和川ももっともっときれいになると期待しています」

ヨシ紙漉き

知的障がいを持っている所員が
たくさんの人と触れ合うきっかけとなっています
紙再生工房 所長 前橋誠士さん

「4年前、大和川で刈り取ったヨシの利用方法について相談を受けて以来、パルプ化したヨシを原料に紙漉きをしてハガキや名刺を作っています。知的障がいを持っている所員が、たくさんの人とふれあい、社会参加できる機会を得ることができ、非常にうれしく思っています」

紙再生工房は、リサイクル紙でハガキや名刺、封筒などを作っている、知的障がいを持つ方たちの作業所です。ヨシを原料としたシマノ・ペーパーを作成いただいている他、堺市内の小学校での紙漉き体験授業をシマノとともにいただいています。



信頼の構築

活動 ハイライト

「自転車のあるライフスタイル」提案をより明確に
～ 自転車博物館リニューアル～

シマノ本社が所在する堺市に開設された「自転車博物館」
(運営:財団法人シマノサイクル開発センター)が創立15周年を機に、
2007年4月リニューアルオープンします。
リニューアルの狙いと内容を中村事務局長に聞きました。



中村事務局長

「主張する博物館」を目指して

「今回のリニューアルの最大の目的は“自転車のあるライフスタイル提案”の強化です。
この地で15年間博物館を運営してきましたが、特にこの数年、人々の自転車への
関心が高まっているという手応えを感じています。だから、“展示を見て終わり”ではなく、
展示を見終わってすぐに自転車を買って帰りたいような“主張する博物館”を目指しました」
(中村事務局長談。以下同)

自転車の発達史をよりわかりやすく - 2階 -

自転車博物館の入口は2階。この階は自転車の
歴史と進化について“学ぶ”フロアです。

「今までよりも自転車の発達史がわかりやすくなるように
工夫しました。発達の歴史を『地面を蹴った』『地面から
足が離れた』『より速く』『より安全に』『より快適に』
という5段階に分け、各段階にふさわしい自転車を見やすく
展示します。それぞれのコーナーには説明パネル
だけでなく解説ビデオなども置いて、理解を助けたいと
考えています」



2階

身近なテーマを切り口に、自転車生活の魅力を提案 - 3階 -

「今回のリニューアルで一番変わるのはこのフロアです。“自分もこんな風に自転車に乗ってみよう”
と思ってもらえるきっかけを提供したいと考え、いくつかのテーマを設定しました。
主に女性を意識したテーマは『ビューティーアップ』。“どのような乗り方をすると美しい脚線美が
手に入るのか”をビデオ映像なども交えて伝えます。
男性向けには『健康』を切り口にした展示を設けました。昨今メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の
危険性に注目が集まっていますので、その予防のための自転車通勤を勧めます。
どちらのテーマに関しても“乗ってみよう”と思ったときのために、最新機能の街乗り自転車の紹介を
併せて行ないます」

「当館の入館者の8割を占める子どもたちのための展示も
工夫しました。自転車を通じて環境問題や地元堺に関心を持
って欲しいと考え、『こども自転車新聞』と題した壁新聞を
掲示します。

さらに、楽しい要素としては、子供たちが描いた自転車の
絵を3階の壁に壁画のようにちりばめることにしました。
図案は毎年開催している『こども絵画コンクール』の
応募作から選んだのですが、3階全体を夢のある
明るい雰囲気にしてくれると期待しています」



3階

収蔵庫を公開 - 1階 -

「AVホールと図書室がある1階では、
今まで非公開だった収蔵庫を公開することにした。
扉を開放して室内を一望してもらえるようにするだけ
なので収蔵庫内には入れませんが、2～3階に
展示しきれないクラシック自転車や変わり種自転車の
数々を楽しんでいただければと思います」



1階



自転車散歩の様子

「展示を中心にお話ししてきましたが、もちろん、従来行ってきた
『自転車散歩』『健康サイクリング』『自転車乗り方教室』などの
イベントは継続して行なっていきます。
3階の展示を見て自転車生活を始める方々の手引きを兼ねて、
今まで以上に活発にイベントを行ないたいですね」

「2007年度の企画展示(3階)のテーマは『昭和』です。この15年間の感謝を込めて、
開館以来ご寄贈いただいた自転車の中から昭和の自転車を展示したいと計画しています。
リニューアルオープンは4月1日(日)。ぜひ足をお運び下さい」

その他 2006年度社会活動

喜びの高揚



自転車レース・イベントの開催

シマノでは、サイクルスポーツを楽しむイベントを開催しています。エントリーレベルからエキスパートまですべてのサイクリストが楽しめるさまざまな種目を用意し、より多くの方々がサイクルスポーツに接する機会を提供しています。

- 2007年度 シマノ自転車イベント開催の予定
- 「第9回 シマノもてぎロードレース」
開催日:4月8日(日)
開催場所:ツインリンクもてぎ(栃木県芳賀郡茂木町)
- 「第17回 シマノ・バイカーズ・フェスティバル」
7月21日(土)~22日(日)
開催場所:富士見パラマリゾート(長野県諏訪郡富士見町)
- 「第24回 シマノ鈴鹿ロードレース」
8月25日(土)~26日(日)
開催場所:鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)



シマノ・ジャパンカップ、各種釣り大会の開催

「へら」、「鮎」、「磯」、「投」の4釣種で開催している「シマノ・ジャパンカップ」をはじめとして、日本全国各地でさまざまな釣種の競技会を開催しています。ただ魚を釣るだけの釣りからスポーツや競技としての釣りの楽しさを提供しています。



シマノレーシング

レーシングチームを擁し、日本でのサイクルスポーツの発展に寄与しています。2005年よりオランダと日本に活動拠点を置き、UCI(国際自転車競技連合)公認のコンチネンタルプロチームとして活動を行なっております。

世界のレース文化への支援

2005年よりオランダと日本に活動拠点を置き、UCI(国際自転車競技連合)公認のコンチネンタルプロチームとして活動を行なっております。



各種実釣会の開催

新たな釣りスタイルやそこから生まれた釣具といったシマノからの提案を体験・理解していただくために、各種の実釣会を開催しています。

釣りロマンを求めて

国内に留まらず、世界の釣り場から夢のある釣りの楽しみをお届けしています。同時に釣り場で求められるマナーについても盛り込み、釣り文化の普及・啓蒙を行なっています。



テレビ東京系列各局で毎週放映中。

利用環境の改善と保全

「エコビジョン」製品の展開

より快適に自転車を楽しんでいただくため、自動変速システムやオートライトなど、自転車部品に最先端のエレクトロニクス技術を導入しています。必要な電力は車軸に内蔵された発電機から供給されます。電池の要らない「エコビジョン」は、高い機能で乗り手を満足させるとともに、人や環境にやさしい自転車本来の進化を遂げたシステムです。



電子制御によりかるやかで心地の良いペダリングを実現。

暗くなれば自動的にライトが点灯。安心で安全。

ECO対象車への転換・導入促進



シマノの物流を担う(株)サンボウ様では、トラックを段階的に天然ガス車などのECO対象車に転換しています。

ルート管理システムの推進

複数のお取引先様で物流車両を共有化し、効率的で環境負荷の少ない物流の推進に取り組んでいます

信頼の構築

せんなん里海公園での清掃活動

「発生源からゴミを減らし、世界の海洋汚染を減らす」という国際ビーチ・クリーンアップ・キャンペーンの主旨に賛同した活動です。清掃活動と同時にどんなゴミがどのくらいあるか調査し、報告しています。



「堺自転車まちづくり市民の会」への参加

地元堺市において、市民参画の「"自転車力"を活かすまちづくり」活動に協力しています。



Team Shimano



チームシマノは、21の国と地域に拠点を置き、それぞれの地域において、さまざまな社会活動を展開しています。ここでは、チームシマノの海外での社会活動について、ご紹介いたします。

喜びの高揚

自転車を多くの人に楽しんでもらうアイデアを募集 シマノ・サイクリング・コンセプト・アワード(シマノ・ヨーロッパ)

多くの人々にサイクリングを楽しんでもらうためのアイデア募集事業「シマノ・サイクリング・コンセプト・アワード」を2000年より主催しています。2006年は「学校での自転車利用を促進するアイデア」を募集、73件もの応募をいただきました。



「サイクリングは、環境にやさしいばかりでなく、健康にも寄与する移動手段、しかも、楽しいものです。このプロジェクトを通じて、子供たちにその魅力を伝えていきたいと思っています」

シマノ・ヨーロッパ Harald Troost

健康的なライフスタイルを推奨 サイクリングツアーへの参加と協賛(シマノ・シンガポール、マレーシア、バタム)



シマノ・シンガポール、シマノ・マレーシア、シマノ・バタムは、「サイクリングを通じて健康的なライフスタイルを推奨すること」を目的としたサイクリング大会「NTUC* イーストノース・チャレンジ」(2006年8/13~21)に協賛しました。開催2回目となる本年は、マレーシアのトレンガヌからペナンまでの550kmを走るツアーで、21歳から64歳までの41人が参加しました。シマノはイベントバナーやライダーの使うヘルメット、ジャージーを提供したほか、参加者に車で伴走し、トラブルがあった際のテクニカルサポートも行ないました。

*NTUC: シンガポール労働組合会議

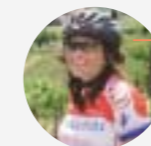
「"健康的なライフスタイル"推奨のための長距離サイクリングツアーを行なうことがNTUCの念願でした。多くの協力を得てツアーが実施できたことに感謝します。2007年度はより長距離のサイクリングツアーを企画中です」

シマノ・シンガポール Misnan Buang



難病の子供たちに釣り体験を提供 メイク・ア・ウィッシュ・プロジェクト(シマノ・アメリカ)

シマノ・アメリカは、ボランティア団体「メイク・ア・ウィッシュ」に協力しました。メイク・ア・ウィッシュは、難病と闘っている子どもたちの夢をかなえ、生きる力や病氣と闘う勇気を持ってもらうことを願ってアメリカで設立された団体で、現在、世界中で活動をしています。今回は「シマノ・アメリカの近くに暮らす25人の子供たちを釣りに連れていく」という活動を、2006年10月にお手伝いをしました。25人の中には、釣り好きの子供もいれば、初めて釣りに挑戦するという子供もいました。シマノは釣具を用意し、子供たちとご家族と一緒にボートに乗り、釣り方を教えたり、仕掛けに餌をつけるお手伝いをしました。



「子供たちにとって"特別な釣り体験"のお手伝いができて、とても良かったです。一緒に水辺に行って釣りを楽しんでもらっただけでなく、彼らの普段の生活の中では得られないふれあいの場を提供することができたのではないかと自負しています。このような機会がもう一度与えられたら、ぜひまた協力したいと思います」

シマノ・アメリカ Stacey Pollock

利用環境の改善と保全

国際的な自転車活用推進機関への協力 「イクレイ」自転車を楽しむ都市賞への支援(シマノ・ヨーロッパ)

国際的な自治体連合組織イクレイ(ICLEI)とともに「自転車を楽しむ都市賞」を設けています。これは自転車を活用した優しいまちづくりで優れた成果をあげた自治体を国際的に表彰するもので、2006年2月末に開催されたイクレイ世界大会で第1回顕彰が行なわれました。第1回最優秀賞は、ケープタウン(南アフリカ)とジュネーブ(スイス)でした。



イクレイ授賞式に参加できなかったコプリブニカ市(クロアチア)をシマノ・ヨーロッパメンバーが訪問。プレゼンターとして授与を行ないました。



「自転車は世界中で使用されている、ある意味、最も身近な乗り物です。環境に優しく、健康に良い自転車は、持続可能な経済成長にも寄与するものです。これらの活動を通じて、自転車が秘めた大きな可能性を伸ばしていきたいと考えています」

シマノ・ヨーロッパ Hans van Vliet

フィールドを傷つけないマウンテンバイク利用のために 「マウンテンバイクの環境への影響調査」への協力(シマノ・アメリカ)

シマノ・アメリカでは、2003年から、アリゾナ州やアリゾナ大学などと協力して「マウンテンバイクの環境への影響調査」を続けてきました。調査地点は多岐に渡り、合計185マイルを超える31の道が対象となりました。2006年、この調査結果が『環境にやさしいマウンテンバイク道の計画と管理』という書籍にまとめられました。環境に配慮したマウンテンバイクの楽しみ方を土地管理者とマウンテンバイク愛好者に伝える内容となっています。

環境負荷に配慮した工場を 直接的・間接的な環境負荷の低減(シマノ・シンガポール)

焼きなまし炉の使用効率を高めることで、LPGの使用を削減し、環境負荷を低減することができました。人事部門においては、これまでタイムカードで行っていた従業員の出勤管理を電子化し、紙の使用量も削減しています。



信頼の構築



中国における産学協働 冷間鍛造技術研究を助成(シマノ・昆山)

2003年から上海交通大学への研究助成を続けています。2006年7月にはシマノ・昆山の工場に19名の学生を招き、冷間鍛造技術について、実例を交えた指導を実施しました。私たちはこうした活動により、中国における冷間鍛造技術の向上に寄与するとともに、教育機関への支援を行なっております。

孤児たちに快適な環境を 孤児院への寄附と建物修繕 (シマノ・シンガポール、マレーシア、バタム)

2006年9月22日、シマノ・シンガポール、シマノ・マレーシア、シマノ・バタムは、共同でバタム島の孤児院に食料・衣類・学用品と自転車を寄贈しました。また、孤児たちがより快適に暮らせるよう、古くなっていた孤児院のトイレや屋根・浴室の改装も行ないました。



「安全に長く使ってもらえるように、自転車のメンテナンスや機能・安全性について説明を行ないました。すべての寄贈が終わったあと、子供たちの心のこもった感謝の言葉が嬉しかったです。小さな活動も続けることが大事だと思います。今後もこうした取り組みを通じて地域の方々との交流を図りたいと思います」

シマノ・シンガポール Mustafa Zainudin

地震被災者への寄附 インドネシア・ジャワ島中部地震被災者への寄附 (シマノ・シンガポール、シマノ本社)

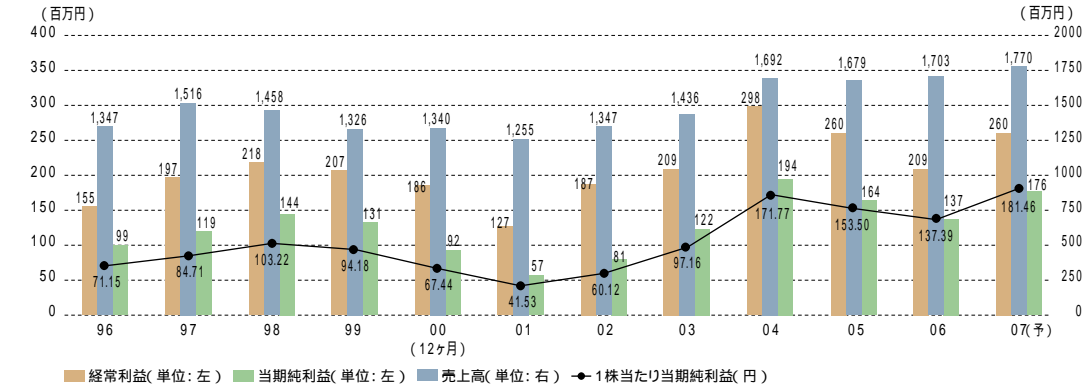
2006年5月にインドネシア・ジャワ島中部地震が発生し、多くの方が被害を被りました。シマノ・マレーシア、シマノ・バタムのスタッフ133名も、被災者となりました。シマノ・シンガポールとシマノ本社では募金運動を実施。社員からの募金と同額を会社からマッチングさせた寄付金を被災スタッフに提供するとともに、シンガポール赤十字にも寄付を行ないました。当社のスタッフを含め、被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。



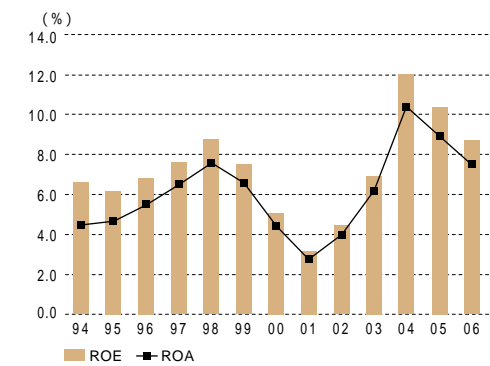
チームシマノ パフォーマンスデータ

財務

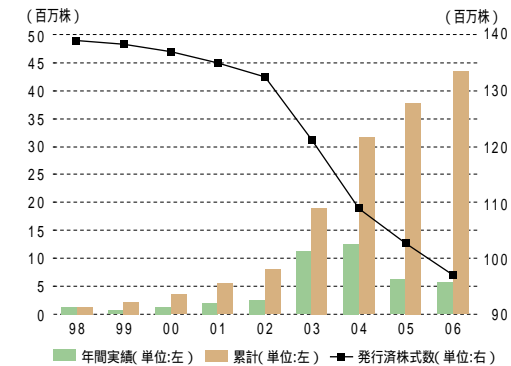
業績の推移(連結)



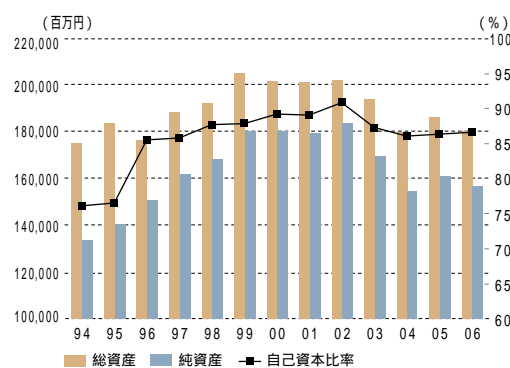
連結ROA/ROEの推移



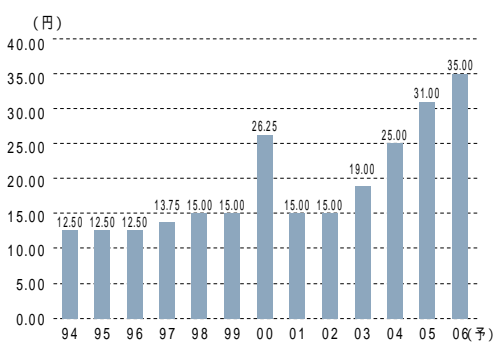
自己株式の買入実績と発行済株式数



連結総資産・連結株主資本推移



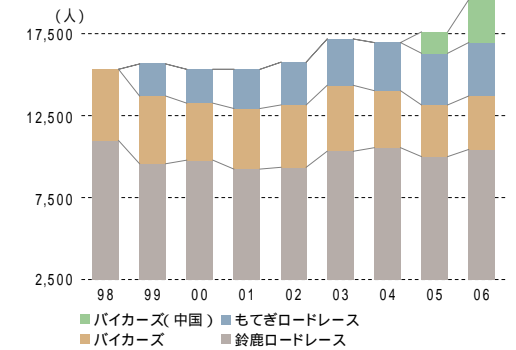
1株当たり配当金



社会活動

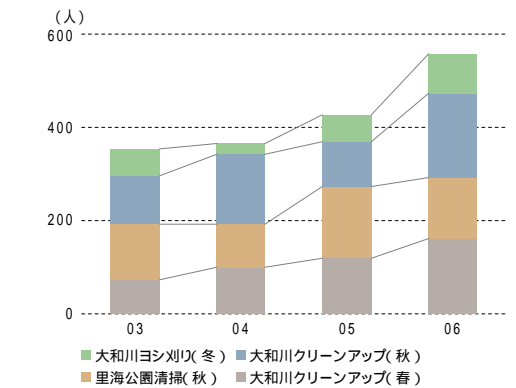
各種自転車イベント参加者数

23年間連続開催している「シマノ鈴鹿ロードレース」をはじめ、自転車の楽しさを体感できるイベントを多数主催しています。「バイカーズ・フェスティバル中国」(2003年～参加者データは2005年～)など、イベントの種類・会場を拡大しています。



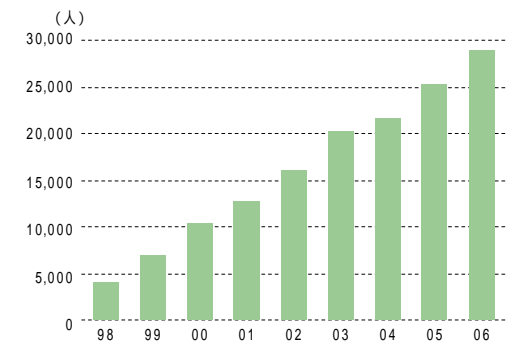
地域における環境保全活動への参加

かつて全国水質ワースト1になったことのある地元の河川「大和川」を中心に環境保全活動を定期的に行なっています。身近な環境問題について考える好機と、家族連れで参加する社員も増えています。



自転車博物館「こども絵画コンクール」応募者数

自転車博物館開館(1992年)以来、「夢の自転車」「人と自転車の生活風景」などのテーマで小学生・幼児の作品を募集。写生のための入館は無料にするなどの試みを続けた結果、少子化にも関わらず「応募者増加」が続いています。



「2006年度社会活動報告書」を読んで

今回で3回目となる本報告書は、昨年に比べいくつかの注目すべき改善と提案が見られる。

まず金融商品取引法の成立による内部統制システムについての説明が加えられた。シマノには「和して厳しく」の企業風土があり、ISOによる業務管理の土台があるので、外部に頼らず、社内の組織横断的なプロジェクトチームで進め、4月には専任部署を設置の予定という。来年度の報告書には具体的な体制と内容の開示を期待したい。コーポレート・ガバナンスは法的あるいは内部的監視だけでなく、市場からの要請に応えることも必要であり、それが企業価値の創造につながるのである。

第二に、グローバルに活動するチームシマノとしての視座に立ったことである。基本理念を共有した国内と海外のプレーヤーとしての社員を中心に、3つの社会方針による活動をマガジン風に編集した。国内各地はもとより、欧米・東南アジアでの「自転車」と「釣り」を通しての各種イベントや環境負荷低減活動が、人と企業の地道なりレーションシップと一体感を構築していく様子がわかる。

第三に、「こころ躍る製品を」に自転車と釣具の新製品での受賞が報告されている。使いやすい製品を社会に提供することが事業活動の基本になっているので、受賞は社員の意欲高揚にもなり、デザインや機能のさらなる研究に結びつくだろうが、こころ躍る"主体はまずユーザー(需要者)でなければならない。素晴らしい製品を使用したユーザーからのメッセージがあると、さらに"こころ躍る"報告になったのではないか。

第四に、客観的数値として巻末に「社会活動パフォーマンスデータ」を掲載、業績の推移と財務指標、社会活動ではイベントの参加者や応募者数を知ることができる。比較的右肩上がりのデータが多いのだが、市場が求めるデータ、環境経営指標なども開示すると信頼を得られるだろう。

CSR(企業社会責任)レポートは既成事実の報告に終始しがちだが、本報告書には人(個人)が企業と共に、どのように社会や自然環境と関わっていくかという、「ライフスタイル」の提案を見ることができる。価値創造の「健康とよこび」の基本理念は、まさしく"ロハス"ビジネスであり、もっとアピールしてよいだろう。グローバルなチームシマノの社会活動報告を多言語で公表すれば、企業評価はさらに高まるに違いない。

千葉商科大学/大学院教授 藤江俊彦

